

シンポジウムテーマ 「大学スポーツの未来 ～UNIVAS を考える～」

氏名：川原 貴

所属：大学スポーツ協会

<プロフィール>

1976年東京大学医学部卒業、東京大学医学部助手、教養学部講師、助教授を経て、1999年国立スポーツ科学センター設置準備室長、2001年国立スポーツ科学センタースポーツ医学研究部長、2014年センター長、2017年退職、2019年大学スポーツ協会副会長



大学スポーツ協会 UNIVAS は「大学スポーツの振興により、「卓越性を有する人材」を育成し、大学ブランドの強化及び競技力の向上を図る。もって、我が国の地域・経済・社会の更なる発展に貢献する。」という理念のもと、2019年3月に設立され、①学びの環境整備、②大学スポーツにおける安全安心の確保、③大学スポーツを盛り上げる、の3つの事業を行っています。

2018年度の設立準備委員会では日本版 NCAA と謳っていたこともあり、「大学スポーツをビジネス化するのはいかがなものか」、「日本では米国のような大学スポーツのビジネス化は無理だ」、「スポーツによる大学のブランド化や競技力向上は国公立大学には関係ない」、という意見があったり、「大学スポーツ協会に加盟するメリットが分からない」、「大学スポーツ協会が何をしようとしているのか分からない」、などの意見が寄せられたりしています。

大学スポーツ協会としては、加盟、非加盟に関わらず、大学学長に集まっていたいて懇談会を開催したり、大学や競技団体への説明会の開催、ニューズレターの配信などをしたりして理解に努めているところですが、大学の体育、スポーツ関係者に十分な情報が行き渡っておらず、誤解なども生じています。そこで、本シンポジウムでは、大学スポーツ協会に対する理解を深めていただいたうえで、大学スポーツの在り方と大学、競技団体の役割、大学スポーツ協会の役割などについて議論したいと思います。

大学スポーツは新しいステージへ ～UNIVAS の設立とめざすもの～

氏名：池田 敦司

所属：一般社団法人 大学スポーツ協会 UNIVAS

<プロフィール>

1979年早稲田大学卒。西武百貨店にて営業戦略、販売促進業務に従事。2005年東北楽天ゴールデンイーグルスの創設に参画、取締役副社長を務めボールパーク戦略を推進、2013年には球団創設9年目で日本一となる。2015年クリムゾンフットボールクラブ（現ヴィッセル神戸）代表取締役社長に就任。2017年仙台大学 教授就任、2019年より現職。



2019年3月、およそ3年間の検討・準備期間を経て一般社団法人大学スポーツ協会 UNIVAS は設立されました。大学スポーツにおいては、他の教育年代や社会人とは違って、大学や競技団体を横断型で統括する組織はありませんでした。

現在の大学スポーツは様々な課題を抱えています。そもそも大学生のスポーツ離れといわれている中、課外活動であるが故に大学としての関与にも濃淡があり、ともすれば運動部は個の活動に留まって孤立し、大学全体の資産として活用されていないケースも散見されます。また、昨今顕在化してきているスポーツ界の不祥事や、推薦入試制度の進展などの諸課題も抱えています。

そのような大学スポーツ環境の中で UNIVAS は活動を始めました。

学業充実による文武両道の促進、学生が安全に安心して競技に取り組める環境の整備、大学スポーツの更なる認知拡大等、大学スポーツへの参画人口の拡大と更なる振興に向けて取り組む UNIVAS の活動をご紹介します。

日本体育大学の取り組みについて

氏名：佐野 昌行

所属：日本体育大学

<プロフィール>

日本体育大学スポーツマネジメント学部准教授。UNIVAS 創設前のスポーツ庁による学産官連携協議会（2017）、日本版 NCAA 設立準備委員会（2018）に参加。日体大アスレティックデパートメントにおいてスポーツ・アドミニストレーターを務めている。専門はスポーツマネジメント。



大学スポーツの統括組織（現在の UNIVAS）創設に向けた議論が活発化し始めた 2017 年、日本体育大学では従来の「スポーツ局」を改組する形で「アスレティックデパートメント」（AD）を設立しました。シンポジウム内では本学 AD の概要についてご紹介した後、特に大学スポーツにおけるスポンサーや寄付の獲得に向けた検討の結果と応援文化の醸成に向けた活動を中心に、AD の取り組みについてご紹介させていただきます。

2019 年 8 月に UNIVAS から発行された「大学スポーツ振興に向けた大学スポーツ統括業務の手引書」では、AD 局の業務として非常に広範かつ詳細な役割が期待されています。在学生の約 75% がクラブに所属している本学では、手引書に記載されているすべての役割を AD が担うことは不可能ですが、学内の各部署と連携することで運動部学生の支援を行っています。例えば、学修支援やキャリア支援については、運動部学生だけを対象とするというより、全学生に対して提供しているサービスを運動部学生にも利用してもらっています。クラブパンフレットの制作や全クラブにおける会計監査の実施等も、大学事務室が関与・支援してきました。それら大学内の各部署による大学スポーツ支援の取り組み内容についてもご紹介いたします。

一方で、保険の加入や社会貢献活動の推進等、大学による支援が手薄な面や、学内の資源をうまく有効活用できていない面があるのも事実です。シンポジウムの中では、これまでの取り組みによって浮かび上がってきた問題点やうまく進まない要因についても議論することで、大学スポーツ振興に向けた学内整備の課題について検討したいと思います。